

雷と突風及びひょうに対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

令和7年5月21日5時14分、「雷と突風及びひょうに関する福島県気象情報 第2号（福島地方気象台）」が発表されました。今後の気象情報に注意するとともに、農作物の管理には十分注意してください。

福島県では、21日昼前から夜のはじめ頃にかけて、大気の状態が非常に不安定となる見込みです。竜巻などの激しい突風や落雷、ひょう、急な強い雨に注意してください。

【気象状況】

21日は、日中の気温の上昇や暖かく湿った空気の影響により、大気の状態が非常に不安定となるでしょう。

このため、福島県では、積乱雲が発達し、雷の発生する所がある見込みです。

【防災事項】

福島県では、21日昼前から夜のはじめ頃にかけて、竜巻などの激しい突風や落雷、ひょうによる農作物や農業施設等への被害、急な強い雨に注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。

【補足事項】

今後発表する防災気象情報に留意してください。

これで、「雷と突風及びひょうに関する福島県気象情報」は終了します。

【共 通】

- 1 突風や降ひょうに備えて、パイプハウス等の点検やビニールの補修を行いましょう。また、露地栽培では、事前に収穫可能な農作物の収穫に努めましょう。発達した積乱雲の近づく兆きざしがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。

【水 稲】

1 事前対策

- (1) 増水に備え、用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきましょう。
- (2) 大雨により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないでください。

2 事後対策

- (1) 稲が水没している場合は、葉先が出るように排水しましょう。
- (2) ひょう害があった場合は、原則として植え直しはせず、浅水管理や間断灌漑を行い、生育の回復を図りましょう。また、生育の回復を目的とした追肥は行わないでください。

【野菜・花き】

1 事前対策

(1) 共 通

ア パイプハウスでは、被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。

- イ 施設では、天窓や扉があおられたり風雨が吹き込まないように閉めておきましょう。
- ウ は種や定植を予定しているものは、天候回復後に実施しましょう。
- エ 降ひょうの被害防止対策として、品目や生育ステージにもよりますが、応急的対応としてトンネルやべたがけ資材を事前に被覆しましょう。

2 事後対策

(1) 共 通

- ア 茎葉に被害を受けた場合、細菌性病害や灰色かび病などが発生しやすいので早急に薬剤散布を行いましょう。
- イ 草勢回復のため、速効性肥料の追肥（灌注）や液肥の葉面散布を行いましょう。
- ウ 被害程度が重く回復する可能性が低い場合は、他作物への転換や播き直しを行いましょう。
- エ ハウスやトンネルの被覆資材が損傷した場合は、早期に補修しましょう。

(2) 野 菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復させましょう。
- イ 果菜類等でネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- ウ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、速やかに適切な薬剤散布を行いましょう。また、液肥や酸素供給剤のかん注、液肥の葉面散布により、草勢回復を図りましょう。
- エ 茎葉に被害を受けた場合、軟腐病などの細菌性病害や灰色かび病などが発生しやすいので早急に防除を行いましょう。
- オ 被害を受けた若茎や果実は、早期に取り除いて株への負担を軽減し、草勢の回復を図りましょう。茎葉の被害が大きい場合は、全体の果実（幼果含む）を摘み取り新葉や側枝の発生を促しましょう。
- カ 草勢回復のため、速効性肥料の追肥や液肥の葉面散布を行いましょう。
- キ 被害程度が重く、出荷できる可能性が低い場合や、葉菜類等のように短期間で収穫可能なものは、他作物への転換やまき直しを行いましょう。

(3) 花 き

- ア 被害程度が軽い場合でも、傷口から病害が感染することがあるため、殺菌剤など薬剤散布を行いましょう。
- イ 被害程度が比較的軽いものについては、生育状況を見ながら葉面散布剤等で草勢の回復を図りましょう。
- ウ 生育回復が望めない株については、そのまま放置すると病害等の感染源になる場合もあるため、速やかに処分し補植を行いましょう。

【果 樹】

1 事前対策

- (1) りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認しましょう。
- (2) 立木では主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱を添え、折損などの未然防止に万全を期してください。
- (3) 果樹棚等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。
- (4) 多目的防災網を設置している園地では、早急に網を広げましょう。
- (5) モモせん孔細菌病やナシ黒星病などの病害は、降雨により病原菌の分散が助長されるので、効果のある薬剤を降雨前に散布するよう心がけましょう。

2 事後対策

- (1) 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定します。
- (2) 大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させます。また、大枝が折損した場合は、折れた部分からやや基部の健全な部分まで切り戻しましょう。さらに、傷口から病害などが侵入しないように、傷口の保護に努めます。
- (3) 果樹棚のワイヤー等が破損した場合は、速やかに修復や補強を実施しましょう。

【畜産・飼料作物】

1 事前対策

- (1) 風雨等の吹き込みを未然に防止するため、畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等を行いましょう。
- (2) 開放された飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水やひょうがかからないようにしましょう。
- (3) 堆肥舎は、風雨等の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。
- (4) 停電や断水時等の対応をあらかじめ確認し、被災時には、自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう準備しておきましょう。
- (5) 急な豪雨に備え、水はけの悪い草地や飼料畑には、明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。

2 事後対策

- (1) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- (2) 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し、速やかに排水しましょう。
- (3) 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>